

「ヘリコバクター・ピロリ除菌治療 Q&A」

榊 信廣 著

日本消化器病学会理事長
埼玉医科大学教授・第3内科

藤 原 研 司

日常の診療において真に役立つ医学書は少ない。医学書院から発刊された榊信廣氏の「ヘリコバクター・ピロリ除菌治療 Q&A」は、この数少ない医学書として評価される。

ヘリコバクター・ピロリは、消化性潰瘍や胃癌の原因となりうる特殊なグラム陰性桿菌として世界中で注目されてきた。その除菌治療が、消化性潰瘍を対象としてこの度(平成12年11月)保険診療として認められた。それだけに、この除菌治療の実際とヘリコバクター・ピロリ菌をめぐる基本知識に広く関心が集まるのは必然で、医療現場ではマニュアル的な解説書が必要となろう。

医学書は、多くの場合、編集者によって企画され、基礎編から臨床編にわたって多数の著者によって記載されるので、内容の細部においては

一貫性に欠けることがある。また、医学の立場が強調され、医療面からの内容は必ずしも十分でない。そのため部分部分が参考書として役立つことがあっても、座右の書としては活用できない医学書が多いのである。

榊信廣氏は、長年にわたりヘリコバクター・ピロリ菌の基礎研究に携わるとともに、臨床の現場でその意義の解明に取り組んできたわが国の草分けである。その豊富な経験と見識の高さから、頻回にわたって全国各地での講演を行うこととなり、その都度に数多くの医師、コメディカルからの質問を受け、現場のニーズを体験することになったのである。今回、ヘリコバクター・ピロリ除菌療法の案内書として単独の執筆により本書を出版されたのも、同氏をお

いてはできなかったことである。

本書は、除菌療法の基本から感染の検査法、更にはヘリコバクター・ピロリ菌の基本知識、消化性潰瘍治療の基本、当該菌が関連する他の病態にまで、必要な内容が実践的な立場から簡潔に記載されている点に特徴がある。しかも、あらゆる医療従事者に役立つような内容構成となっている。実例として症例提示しているのも理解を助けている。

本書こそが新しい時代の要請である医学と医療との調和を著書として示したものであろう。

● A5 頁160 図17 写真12
カラー写真48 色図2 表36
2001 定価(本体3,000円+税) 送料実費

——医学書院 刊(☎03-3817-5657)